シリーズ 57

我が家の家庭教育

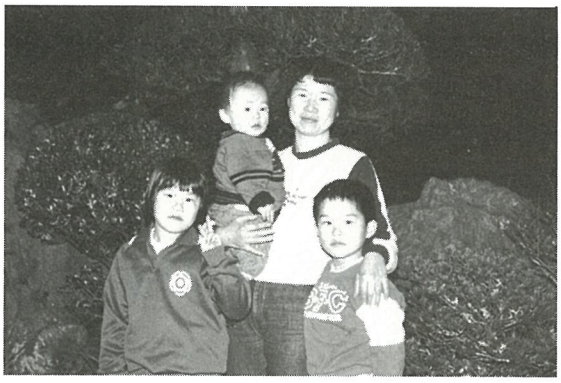
思いやり、信頼関係の保てる親子でありたい

作間内 富永君子

我が家の家族構状は、長女小三、長男小一、二男生後十一ヵ月と私達夫婦の核家族です。しかし、共働きの為三人の子供達は、産休あけから、実家の祖父母に預け、送り迎えの毎日で九年間が過ぎました。

その間、家庭教育という言葉にふさわしい躾(しつけ)や教えは果たしてきただろうか、改めて反省しております。

現在、子供達をとりまく社会環境は、複雑でさまざまな問題があります。物質的にはお金さえだせば何でも手に入る豊かな時代となった反面、心理的に満たされず、いじめや登校拒否、非行に走ったり、家庭外労働に伴う地域との交流の薄さ、車社会の巻き起こす事故や公害、詰め込み型学習塾の進出等、そんな中で子供とじょうずに付き合うにはどうしたらよいか、理想の子供像だけは描いてはいるものの、自分自身の未熟さと経験不足、勉強不足が足をひっぱり、理想とはかけ離れてしまったような気がします。



子供達にとって、父親や祖父母の存在は大きく、接触も濃く、いろいろな影響を受けて育ってきました。又、母親の足りない部分を、随分補ってもらっていると思います。

長女は素直だが、積極性に欠け、少々引っ込み思案、すぐ下の弟とは毎日喧嘩ばかりしていますが、三番目とは年齢差もあるせいか、大変よくめんどうを見ます。長男は元気だけが取り柄の腕白坊主で学習意欲には欠けております。夕飯のしたくの合間などに、なるべく学習面は見るようにしておりますが、時間が足りないのが現状です。

だんだんむずかしい年頃となり、子育てに迷うことも多くなると思いますが、子供といっしょになって考え、話し合いながら、お互いに思いやりと信頼関係の保てる親子でありたいと思います。

幸い家族みんなが健康で過ごせることに感謝しつつ、子供と共に自分も成長していきたいと思います。

保育園と老人ホームへ さつま芋とまごころのプレゼント♡

白浜小 5・6年生

▲ 保育園で焼き芋ができるまで5年生のみなさんが、手作りした紙芝居や趣向をこらしたゲームで楽しむ

11月28日に白浜小学校の5・6年生が、自分たちで作ったさつま芋を持って、白浜保育園と光楽園養護老人ホームを慰問しました。園児やお年寄りたちは、おいしいお芋と、まごころの贈り物に大喜びでした。同校は、昭和61年度に社会福祉推進校の指定を受けており、積極的な福祉活動を続けています。

▲ 老人ホームでお年寄りと過ごす6年生